

タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
 シラバスの詳細は以下となります。



| | | | |
|---------------|---|------|----|
| 科目ナンバー | RMGT4602 | | |
| 科目名 | ゼミナールⅡ | | |
| 担当教員 | 福田 充 | | |
| 対象学年 | 3年,4年 | 開講学期 | 後期 |
| 曜日・時限 | 火 4 | | |
| 講義室 | 1313 | 単位区分 | 選必 |
| 授業形態 | 演習 | 単位数 | 2 |
| 科目大分類 | 専門 | | |
| 科目中分類 | 専門統合 | | |
| 科目小分類 | 専門統合・演習 | | |
| 科目の位置付け（開発能力） | <p>■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連</p> <p>DP1-E[学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。</p> <p>DP2-B[自己の特性を理解し社会に貢献しようとする姿勢] 自己の存在意義を知り、自らを高め続けようと努力することができる。</p> <p>DP3-G[状況把握力・判断力] 自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。</p> <p>DP4-I[理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。</p> <p>DP6-K[表現力・対話力] 文章及び口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。</p> <p>DP7-C[他者理解・倫理観・公共心] 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。</p> <p>DP7-L[協働力・牽引力] 集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。</p> <p>DP8-M[省察力] 知識と経験とを関連付け学修成果を活用可能な状態に高めるとともに、これを新しく複雑な状況に転移させ課題解決につなげることができる。</p> <p>■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連</p> <p>B1 自己啓発－10%</p> <p>C1 倫理的思考・社会認識－10%</p> <p>E1 学識と専門技能－20%</p> <p>G1 状況把握－10%</p> <p>I1 理解・分析と読解－10%</p> <p>K1 ライティング・コミュニケーション－20%</p> <p>L1 チームワーク－10%</p> <p>M1 統合的・応用的学修－10%</p> | | |
| 教員の実務経験 | <p>2005年から内閣府内閣官房の「日本のテロ対策の在り方について委員会」などの委員として日本のテロ対策やミサイルなど国民保護体制の構築に関する実務に関与してきました。また2007年から埼玉県「危機・防災懇話会」委員として自治体行政における災害対策やテロ対策の構築のための実務に関わりました。その他にも政府や官庁、自治体の災害対策、テロ対策、国民保護などに関する委員会委員を歴任して、日本の危機管理体制の構築に関わってきました。現在も総務省消防庁ではテロ対策など国民保護についての懇話会で、厚生労働省では新型インフルエンザ委のパンデミックについての有識者会議や委員会で、神奈川県国民保護情報ネットワークでは研究者メンバーとして、行政や自治体、ならびに企業など多様なステークホルダ</p> | | |

| | |
|------------|---|
| | ーと連携しながら日本の危機管理体制の構築に関わっています。こうした実務経験をもとに、講義を行います。(第1回～第15回) |
| 成績ターゲット区分 | <ul style="list-style-type: none"> ■能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期～ 4 定着期 |
| 科目概要・キーワード | <ul style="list-style-type: none"> ■科目概要 危機管理学に関する卒業論文を制作するために実施するゼミナールの演習において、第2段階として、危機管理学に関する実証研究を実施するプロセスを体験し、個人研究のマネジメントを体得するために、ゼミナール履修者全員でひとつの共同研究を実施します。ゼミナールの共同研究テーマを1つ設定し、問題意識を醸成し、その研究対象と研究方法を確立した上で、実際の社会調査を実施します。社会調査を実施するために仮説を構築し、その仮説を検証するための最適な調査計画を確立し、社会調査の調査票を作成し、社会調査を実施します。調査の実施後、調査データの分析を行い、分析結果から研究結果をまとめ、レポートを作成し、研究発表を実施します。なお、授業形態については、テーマと内容を考慮しながら、状況に応じてオンライン授業を取り入れます。 ■キーワード： リスクコミュニケーション、危機管理学、社会調査、統計分析 |
| 授業の趣旨 | <ul style="list-style-type: none"> ■副題 ゼミナール共同研究の実施により研究プロセスを体得します。 ■授業の目的 卒業論文の制作のために、危機管理学に関するリスクコミュニケーションの実証研究について、ゼミ履修者全員で1つの共同研究を実施して、その調査の実施とデータ分析、調査結果のまとめと報告書レポートの作成までを経験することで、実証研究のプロセスを体得することを目的とします。 ■授業のポイント 卒業論文の制作のため、共同研究テーマを決定し、実際の社会調査を実施することでアクティブラーニングにより、実証研究の方法とプロセスを学びます。 |
| 総合到達目標 | <p>卒業論文を執筆するために、実際の共同研究テーマを決定し、ゼミ履修者全員で1つの共同研究を実施し、社会調査を行うことで、実証研究の方法とプロセスを体得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理に関する専門分野の理論知と実践知を獲得し利用することができる。 ・危機管理における自己の社会的責任を知り、自らを高め続ける努力することができる。 ・危機管理に関して自らの置かれた状況、所属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。 ・文章表現、数値データを適切に扱い、情報収集、分析と加工を行い、課題解決につなげることができる。 ・文章と口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に伝達することができる。 ・人間行動に関する考察に取り組み、社会的存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 ・集団的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 ・知識と経験を関連付け学修成果を活用できる状態に高め、新しく複雑な状況に応用して課題解決につなげることができる。 |
| 成績評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ■ゼミナール共同研究での研究作業 (100%) : 適用ルーブリック B1・C1・E1・G1・I1・K1・L1・M1 ・共同研究テーマの決定 ・問題意識の議論と共有 ・研究対象の設定 ・研究方法の選定 ・仮説の構築 ・社会調査票の作成 ・社会調査の実施 ・社会調査データの分析と統計学的検討 ・レポート・報告書の作成 <p>(評価の観点)</p> <p>共同研究における関与度、積極性、リーダーシップ、データ分析の能力、レポート作成における論理性、独創性、発想力などを評価します。</p> <p>(フィードバックの方法)</p> <p>毎回、上記の作業を実施するたびにゼミ演習内で評価・議論を行います。</p> |

| | | |
|---------|---|---|
| 履修条件 | 当該ゼミナールの履修を志望したものに対する入室試験を、エントリーシート、面接、成績評価 (GPA) により実施し、合格したものが履修できます。 | |
| 履修上の注意点 | 危機管理学におけるリスクコミュニケーションについて社会調査による実証研究を卒業論文において実施する意欲のあるものの履修を望みます。 | |
| 授業内容 | 回 | 内容 |
| | 1 | <p>①授業テーマ ガイダンス</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。まず共同研究とは何か、ガイダンスを行います。ゼミナールでは担当教員のこれまでの実務経験を活かしながら研究指導を行います。こうした社会での実務と研究活動がどのように関連してくるかを説明します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| | 2 | <p>①授業テーマ 共同研究テーマに関する議論</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。まずは共同研究のテーマについて自由に議論し、テーマの方向性を定めます。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| | 3 | <p>①授業テーマ 共同研究テーマの決定</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進める。共同研究テーマについて議論を整理し、テーマを決定します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| | 4 | <p>①授業テーマ 問題意識の議論と共有</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究テーマをもとに、現在なぜその研究が必要なのか、その研究にどのような社会的意義があるかを議論し、意識を共有します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| | 5 | <p>①授業テーマ 研究対象の設定</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究テーマにお</p> |

| | |
|----|---|
| | <p>ける研究対象は何か、具体的な社会問題やトピックについて議論し、設定します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 6 | <p>①授業テーマ 先行研究の収集と整理</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。先行研究を収集し、整理することで共同研究テーマにおいて必要なアプローチ、フォーカスをあてるべき重要課題について確立します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 7 | <p>①授業テーマ 研究方法の選定</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究テーマにおいて、どのような社会調査を実施するか、またその社会調査の条件をどのように定めるか、調査対象者の選定、標本抽出法の選定、調査実施方法の選定を行います。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 8 | <p>①授業テーマ 仮説の構築</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究における理論仮説と作業仮説を構築して、ベストな調査方法を検討します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 9 | <p>①授業テーマ 社会調査票の作成</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。アンケートや実験、ヒアリング、フィールドワークで実施する調査票を作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習 (120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進めます。</p> <p>④復習 (120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 10 | <p>①授業テーマ 社会調査の実施</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。実際に計画に基づい</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>た社会調査を実施します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習(120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習(120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 11 | <p>①授業テーマ 調査データの整理と確定</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。社会調査で収集したデータをクリーニングし、調査データと回収率、有効回答率などを確定します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習(120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習(120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 12 | <p>①授業テーマ 単純集計結果の出力</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。調査データ分析として、単純集計結果(度数分布・平均値)を出し、結果を考察します。さらに調査結果からグラフを作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習(120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習(120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 13 | <p>①授業テーマ ガイダンス</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進める。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習(120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進めます。調査データについて多変量解析を実施します。クロス分析、分散分析、相関分析、因子分析、多次元尺度法、重回帰分析、パス解析、判別分析など多変量解析の手法を身につけます。</p> <p>④復習(120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 14 | <p>①授業テーマ 調査データ結果のまとめとレポート化</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。調査データ分析の結果をまとめ、レポートを作成します。担当教員の実務経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習(120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習(120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 15 | <p>①授業テーマ 共同研究の振り返りと総括</p> <p>②授業概要 危機管理学におけるリスクコミュニケーションに関する実証研究の実施のために、共同研究を行うにあたり、当該テーマとなる単元の作業を進めます。共同研究における実証研究の実施について振り返り、議論し、成果と反省点をまとめます。担当教員の実務</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>経験に基づいた演習を展開します。(B1、C1、E1、G1、I1、K1、L1、M1)</p> <p>③予習(120分) 共同研究のために必要な先行研究の収集と読み込みを行うことにより、問題意識を強化し、社会調査の実施のために必要な作業を進める。</p> <p>④復習(120分) 共同研究を進めるために必要な研究活動の実施、成果の整理、レポート化を行う。</p> |
| 関連科目 | <p>■演習系科目 「危機管理基礎演習Ⅰ(RMGT 2601)」・「ゼミナールⅠ(RMGT 4601)」・「ゼミナールⅢ(RMGT 4603)」・「ゼミナールⅣ(RMGT 4604)」</p> <p>■講義科目 「危機管理学概論Ⅰ(RMGT 1301)」, 「リスクコミュニケーション論(RMGT 1304)」 「危機管理学概論Ⅰ(RMGT 1301)」, 「リスクコミュニケーション論(RMGT 1304)」</p> |
| 教科書 | <p>福田充『大震災とメディア～東日本大震災の教訓』(北樹出版)。 福田充『リスク・コミュニケーションとメディア～社会調査論的アプローチ』(北樹出版)。</p> |
| 参考書・参考URL | <p>福田充『テロとインテリジェンス～覇権国家アメリカのジレンマ』(慶應義塾大学出版会)。 福田充『メディアとテロリズム』(新潮新書)。その他は講義中に適宜紹介します。</p> |
| 連絡先・オフィスアワー | <p>■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 金曜3限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室で対応します。</p> |
| 研究比率 | <p>■危機管理領域との対応 災害マネジメント25% : パブリックセキュリティ25% : グローバルセキュリティ25% : 情報セキュリティ25%</p> <p>■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70% : 法学30%</p> |

